

第54回 緑の市民懇話会 会議要旨

1 日 時 令和6年2月15日(木) 10時00分～12時00分

2 場 所 生駒市役所 302会議室

3 出席者

(参加者) 久隆浩座長、下村泰彦、新居延之、高橋美由紀、日高容子、山田勲、米田友二、高比良紀、

(事務局) みどり公園課 巽課長、紀之國課長補佐、緑化景観係 明石係長、南花のまちづくりセンター 高橋所長、立岡係長

4 傍聴者 なし

5 議題・要旨

1 開 会

2 案 件

(1) 第16回花と緑の景観まちづくりコンテストの審査について

資料の審査結果をもとに各賞を選定した。

- ・ 予め実施した写真審査に基づき、部門ごとに点数の高いものから受賞者を決定した。
- ・ 写真審査だと本人の撮影方法やカメラなどの条件で変わるのでなかなか難しいものがあった。現地を知っているともっと良かったんじゃないかと思ったものもあった。
- ・ 事務局が撮ってしまうと事務局の責任になってしまうので、公平性の観点からは自身で撮っていただくのが良いと思う。
- ・ 人の写真が入っていたり、引きでお花と風景を撮影されているものもあったが、今回受賞されているのは花がクローズアップされているものが多かったと思う。今後コンテストを続けていくのであれば、花だけのコンテストではないので、風景がわかる写真を含むよう働きかけをされるのが良いかと思う。
- ・ 今は団体・個人としているが、それだけでなく、数軒単位で綺麗にされている風景があるならぜひ応募いただき、賞を差し上げられたらと思う。
- ・ 今回初めて参加された「里山花あそび」さんは花だけでなく真弓どんぐり公園の森を対象とされている。里山を管理するのは大変なことなのにやっておられるという心意気も素敵だし、このコンテストに広がりを持たせる存在だと思う。

- ・今回、ポーチプレイスメイキング部門が沢山出てきたのは喜ばしいことなのだが、半分くらい、景観まちづくり部門でもいいような内容だった。そのあたりの応募先の区別が参加者も戸惑っているところかもしれないので、次のコンテストでは呼びかけ方を工夫されたい。
→メールで手軽に出せるのはポーチプレイスメイキング部門、景観まちづくり部門は季節ごとに写真を提出しないとイケない。
- ・景観まちづくり部門は応募しにくいということかもしれないので工夫されたい。
- ・各季節撮らなくてもいいし、今は携帯電話の時代で、テンプレートも作ってもらっているので、ポーチプレイスメイキング部門の方が気軽。どこまで手軽にするのがこのコンテストにふさわしいかはわからないが、景観まちづくり部門もメール提出できるようにしたら手間は少し変わるかもしれない。
- ・今、パスポートの更新やニュージーランドのビザ申請・入国審査ですらスマートフォンで完結する時代なので、生駒市もDX化を進めて欲しい。
- ・DX化が進むとストレスを感じる高齢者もいるという意見もある。一方で、デジタルを使った方が楽な世代もいる。デジタルの方が楽な人はデジタル、アナログの方が楽な人はアナログを使えるようにしていければいい。
- ・子どもの頃に自然に触れる経験をした人が大人になって花や緑に触れるようになる気がする。共働きなどを理由に自宅はなかなか手入れができないので家をコンクリートで埋めてしまう人は増えているが、休みに家族で公園で過ごす人もいる。公園の環境も重要である。
- ・昔は道で遊べて、川で泳げて、草っぱらで虫を探せたが、それができなくなった環境を都市公園が引き受けてきた。今の公園がそうした遊びができる場所になっているかのチェックも重要だし、コミュニティパーク事業のような一緒につくっていく事業も大事かと思う。
- ・遊具も、もういらぬ地域もあれば、新しい遊具に更新しないとイケない公園もある。それと里山やまちなかの緑の連携を考えていくことが必要。
- ・いこま里山クラブでは、門松やタケノコ掘り、個人の山林を整備して子どもの裏山遊びができる環境をつくっている。
- ・大阪市の公園は周囲に柵をしていない。そのようなことを生駒市でも頑張っていたきたい。柵を作らないことを原則にすれば、そのためにはどうしたらいいのか知恵を絞るようになる。植物を植える、土掘りするなどボールが転がりにくいように工夫している。
- ・路上生活者の方や落書きはみんなが使う公園では減っていく事例もある。苦情を言う前に、自分がどれだけ公園を使っているか顧みるのも必要である。
- ・中規模・大規模公園はよく使われるが、小規模公園にこれまでどおり公共投資を続けるのかは議論を要する部分である。既に自治体によっては、空き家が激増して先行きの厳しい

ニュータウンと先行きのあるニュータウンを区別した都市計画を定めており、これから
そういうことが起きていく。

- ・このような意見は次の緑の基本計画改定に活かしていただきたい。

(2) その他

現在の形での緑の市民懇話会は今回が最後であることから、各委員からコメントをした。

- ・緑の市民懇話会のように、市民の代表が市の施策に意見を言う会議はなかなかない。生駒の緑や花に自信を持っていただきたい。しっかりとやられている行政体でもあるので、他市の手伝いをしている時に、生駒市でのことを良い事例として紹介させていただくことが多い。懸念点としては5年、10年後のことを思った時に、さきほどのコンテストを紙とスマホどちらでもできるようにした方がいいと思うし、次の世代に輪を広げることを、場所を広げることと併せて取り組んでいかれたい。
- ・ボランティア活動に取り組んでいるが、緑の市民懇話会への参加を通して点ではなく幅広く見るようになった。コンテストの審査などに携わったことも印象深いことだった。
- ・同世代としか話す機会がなかったが、ボランティアをされている方や、市役所の職員の方が色々と考えておられることが知れた。
- ・旧村と新興住宅地の間を繋ぐことを今後もっとしていければと思う。
- ・フランクでオープンな雰囲気良かった。参加者、事務局ともに、この雰囲気を引き継いでいただきたいと思う。個人的には、メンバーで懇親会を行ったのが一番の思い出である。

事務局を代表して、北田都市整備部長より挨拶を行った。

- ・緑の基本計画を契機に始まった懇話会がこれまで続いたことは皆様のお力によるもの。心から感謝申し上げます。今回を最後とするのは今後につなげていくためのこと。
- ・立地適正化計画の策定は今後予定しており、住宅政策としてはニュータウン再生モデルとして取り組んでいる。

3 閉会